

会議要録

会議の名称	酒田コミュニケーションポート（仮称）整備検討委員会（第5回）
開催日時	平成28年12月26日（月） 午後2時00分 ～ 午後3時40分
場 所	市役所本庁舎3階 第2委員会室
出席者	<p>○出席委員 矢口 明子 委員（委員長）、小田島 健男 委員（副委員長）、 齋藤 一男 委員、高橋 利春 委員、田代 典子 委員、 中原 浩子 委員、平尾 清 委員</p> <p>○欠席委員 片桐 晃子 委員、久木原 満 委員、佐藤 晶子 委員、佐藤 真美 委員</p> <p>○事務局 中川企画振興部長、大石教育部長、阿部都市デザイン課長兼図書館主幹、 阿部図書館長、長尾観光振興課長補佐 （都市デザイン課） 本間主査、土井係長、高橋主任、今井主事</p> <p>○基本計画策定支援業務委託者（株式会社図書館総合研究所） 野田取締役、松田主任研究員</p> <p>○再開発事業者（西松建設株式会社） 平澤課長</p> <p>○傍聴者 市民3名、マスコミ3社</p>
<p>1 開 会（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4回委員会の後、市民アンケート、市民ワークショップ、関係団体への意見聴取等、幅広く意見を集めることに努めてきた。基本計画案を示せることとなったのでご意見をたまわりたい。 ・議事に入る前に、委員から「八戸ブックセンター」見学の報告をいただく。 <p>2 八戸ブックセンター見学報告（委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八戸市がつくった書店として12月4日オープンし、非常に好評を得ている。12月16日に見学をしてきた。広さは95坪、8000冊を並べている。 ・入ってすぐにカフェがあり、そこでコーヒーを買って書店内で自由に本が読める。民間の建物「ガーデンテラス」の1階に賃貸（家賃120万/月）で入居。情報センター「ハッチ」の向かいにあり、街の真ん中の立地で流動する仕組みを考えている。 ・ブックタワー、ハンモックなど本を楽しむためのスペースが用意されている。 ・さまざまなテーマでコーナーを作っている。読書会ができるスペースもある。 ・「本を作るコーナー」があり、本を読む人とともに本を書く人を増やす、というコンセプトで執筆室（かんづめブース）になっている。市民が無料で登録して使える。 ・平成26年からまちづくり文化推進室の担当2～3名ではじめ、27年に設計コンセプト作成、28年4月に基本計画書作成。建物は28年7月に竣工、2か月くらいで準備しオープン。 ・市からの委託により市内3書店が作る組合が運営。選書は市が行う。民業圧迫をしないため、市内書店と競合しない品揃えとし、雑誌やコミックは置かず大人向けの良質な本を揃えている。内沼 	

晋太郎氏（ブックコーディネーター）がデザインし、書店勤務経験がある女性3名がスタッフとして働いている。

- ・本は買うことが大事、という市長の思いを実現。利益は出ないが、本を中心としたまちづくりとして、アピールしている。
- ・コーヒーは1杯400円。
- ・本の注文は受け付けず、市内書店に誘導している。

3 議 事

(1) 酒田コミュニケーションポート（仮称）整備基本計画（案）について（資料1及び2に基づき事務局説明）

委 員

- ・とても良い基本計画案である。市民が参画し継続的に発展させていく視点があること、地域マネジメントのシステムを入れているところが良い。
- ・今の内閣で「働き方改革」が推進されており、原則副業禁止から副業可能に変わろうとしている。テレワークなど仕事を都会からローカルに持ってこようという動きがあり、「ノマドワーカー」と呼ばれる人も増えているが、まだまだ地方ではそういう人が仕事ができる場が少ない。ちょうど副業が解禁されている時期に開館するので、副業が可能な場、ビジネスサポートやビジネスマッチングができたり、東京のサテライトオフィスの場となるとよいのではないかと。2～3年後のトレンドにマッチするとよい。

事務局

- ・議会からもビジネス支援をやったらどうかという意見が出ている。コンシェルジュ機能についてもビジネス支援的要素も取り入れていければと考えている。

委 員

- ・これまでの委員会の議論を計画案にほとんど取り入れており、評価できる。
- ・学生が起業しようとした時に登録できる、インキュベーションセンターのような場があるとよい。
- ・観光案内ができる人材、英語でガイドできる人材を学生の中から育てているので、開館時には、学生も案内業務ができる人材に育成したいと思っている。
- ・年末年始は休むのか。帰省者のことを考えると、開いていてもよいと思う。酒田の看板として、色々な人が来る施設になってほしい。

事務局

- ・インキュベーションセンターについては、この施設だけでなく他の施設とも合わせ産業政策の面からも検討していく。酒田おもてなし隊の活動とは連携していきたい。

委 員

- ・コワーキングスペースとカフェやシェアオフィスは、活発なコミュニティが生まれるという点で相性が良い。この施設は子どもたちへのフォローもあるので、面白い事例になる可能性がある。

委 員

- ・シェアオフィスになるコワーキングがあるとよい。

委 員

- ・最近まちなかにいくつかコワーキングがあったり、コワーキングと連携したシェアオフィスがあるなど、まち全体を回遊するような形にして活性化していくという事例もある。
- ・デジタルサイネージを活用し、まちなかでも酒田の文化イベントやセミナーの情報を見られたり、市民からの情報発信、ビジネスマッチングなどができるようになると面白いと思う。

委 員

- ・現在はイベントや講座をやっても、それだけで終わっている。八戸ブックセンターのように、本を作るための場があって、イベントや講座の結果が市民の行動につながる仕組みがあるとよい。

事務局

・現在でも図書館では、こども向けの絵本作り講座などの事業を行っており、ノウハウの蓄積はある。

委員

・本は出版産業としては縮小しているが、公共施設やインターネット、アクティブラーニングなどを本ととらえていく考え方もある。そういうこだわりが反映されていくと面白い。

委員

・八戸ブックセンターはこどもを対象としていない。そうするとこどもの方からだんだんと来なくなるという。

委員

・施設のビジョンや基本方針、その場の雰囲気などからルールが作られていく、ということが重要。市民全員を対象とするのではなく、本に興味がある、成長しよう、学ぼうと思っている人たちを大事にしていくという視点も必要である。

委員

・駐車場について、当初案では242台となっていたと思うが、今日の資料では「200台を基本」となっている。また、駐輪場については台数が書かれていない。駐車場が減ったのは整備区域が変更になったからか。

事務局

・駐車場は、公共が整備する台数は当初から200台で、残り40台は民間が整備する台数であり、当初から計画には変更がない。駐輪場は具体的な台数は示してきていない。文化センターの台数などを参考にしながら、今後具体化していきたい。

委員

・運営組織について、一元的管理体制が言われている。確かに望ましいと思うが、非常に難しいところである。施設を作る過程において、関連する行政課の間でこの課題を議論してほしい。みな関わっているんだという意識を庁内職員の間で持ってほしい。そうしておけば、実際に配置される人材の位置づけも明確になってくると思う。

委員長

・今日は図書館と観光振興課は参加しているが、公園、公共交通、駐車場関係はいない。今後関わり方について検討してまいりたい。
・委員会は本日で最後か。

事務局

・来年度の実施計画策定においても、引き続き開催していく。

委員長

・地域産業支援基本方針への言及に加えて、木材の利用方針も策定されたので加筆してほしい。

事務局

・木材は構造材での使用は難しいので、内装や什器で活用する方向で検討する。

委員

・広場について。「酒田の玄関口としてふさわしいランドスケープ」とあるが、具体的にどのような景観がふさわしいと考えているか。酒田駅の真ん前にあるので、来た人には非常に目立つ位置にある。

事務局

・基本計画案の表紙に西松建設提案のイメージが載せてある。広場と通り沿いには樹木を植え、緑で演出していきたい。広場は舗装ではなく、一部芝生化をしてくつろげる場として整備していきたい。

委 員

・この絵を見た限り、広場は道路のすぐそばにできるようなので、くつろぐというイメージと合わない印象である。

事務局

・くつろげる空間づくりは今後検討していく。広場と施設内のパサージュは一体になるように整備してく予定なので、施設内部も含めた活用を検討していく。

委 員

・市のPTA研修会で、慶応義塾大学の先生の話聞いたが、鶴岡からの参加が多かった。酒田でもこうした講座が気軽に受けられるようになるとよい。

事務局

・アクションプランに挙げている東北公益大学、日本海総合病院、慶應義塾大学先端生命科学研究所には声をかけており、具体化に向けて今後詰めていく。

委 員

・図書館のシステムについて、今後はICカードなどでの管理を予定しているのか。

事務局

・今現在もICタグを使った図書管理を行っており、新しい施設でも同様の予定である。

委 員

・今後は他の公共施設とも共通で使えるとか、商店街でも使えるとなると、観光振興にも資するのではないか。

事務局

・図書館には「図書館の自由」という考えがあり、個人情報には特に守られるべきものとされてきている。システムの統合は難しいが、イベント的に商店街と連携する取組みは可能と思う。

委 員

・読書通帳導入の予定はあるか。

事務局

・図書館システム検討の中で考えていく。

委 員

・市民のブックヒストリーができてくると面白い。

事務局

・高齢者が自分が何を読んだか忘れてしまうのを防止する効果もある。

委 員

・個人情報についてはセキュリティ強化の設計が可能と思う。スマホ対応もしたほうがよい。一度登録すればどこでも使えるようにすると流動性も高まる。人の動きが分かれば、マーケティングにも使える。

委 員

・高校生になぜ図書館に行かないか聞くと、本は自分で買うという子が案外多い。欲しい本をその場で買える、買える場を案内できるような民間に繋がる仕組みがあるとよい。

委 員

・運営形態は、エリアマネジメント、市民団体との協働促進のほかに、利用者の参加もあるとよい。ボランティアも参加できるなど。年末年始はボランティアに協力してもらって開館できると、帰省者の交流の場になる。

委 員

・大学図書館では論文を取り寄せてくれるが、そういうこともできるようになるのか。

事務局

・現在でも東北6県の図書館から資料を借りることは可能。ただし禁帯出でないものに限る。レフ

アレンス機能を強化していく中で、学术论文への対応についても検討したい。

委 員

- ・市民が考える施設利用のストーリーの中に、働いている人のストーリーがあるとよい。

委 員

- ・観光のストーリーもあるとよい。

委員長

- ・加える方向でお願いします。

委 員

- ・広場がかなり広いと思うが、行うイベントなどのイメージはあるか。

事務局

・マルシェやパフォーマンスなどを想定している。民間施設と公共施設の入り口としての役割もあり、決して過大ではないと考えている。歩道を兼ねる部分や外構部も入っている。駅前にイベントができる場は今は無く、気軽に活用できる場が欲しい。商店街とも連携していきたい。弁当開きのためだけではない。

委 員

・広場から何が見えるか、が気になる。鳥海山が見たいと思うが、できるだけ郷土の誇りである山が見えるようであってほしい。

事務局

- ・残念ながら広場からは鳥海山は見えない。

委 員

・ホテル側の壁面の活用について。花巻市では坂道の壁などに宮澤賢治の「銀河鉄道の夜」の映像を映したりしている。壁面を活用して酒田の特色をイメージできる映像を流すなどしてはどうか。

委員長

- ・パブリックコメントの時でもよいので、今後気づいたことがあれば事務局までお願いしたい。

(2) 今後の予定について（資料3に基づき事務局説明）

委 員

- ・施設の名称はいつ決まるのか。

事務局

- ・施設設置条例制定時になる。平成31～32年度あたりになる。

委 員

- ・市民から愛称を募集したりするのか。

事務局

- ・検討していく。

(3) その他

- ・質疑なし

4 閉 会